

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2024 -158	2021/1/1	A Flawed U.S. Shipbuilding Plan to Counter China	【米建造計画への考察】 中国に対抗するには欠陥のある米国の建造計画	Proceedings 2021/1/1	 これも3年前のプロシーディングス誌に載った記事ですが、平時における軍艦建造の重要性を第1次世界大戦前の英独の建艦競争を例に論じています。中国の軍艦建造に対する米国の劣勢に警鐘を鳴らしています。文中のLSCはLarge surface Ship のことで、LCS(沿海域戦闘艦)ではありません。(下線は訳者)	岩崎洋一
2024 -159	2024/9/25	New Dutch Navy Support Vessels Will Be Missile-Toting Wingmen To Frigates	【蘭新型小型艦計画】 オランダ海軍の新しい支援艦は、フリゲート艦にミサイルを運ぶウィングマンになる	THEWARZONE 2024/9/25	 オランダ国防省が新たなコンセプトの支援艦(小型ミサイル艇)の計画を公表。全長174ft、幅32ft、排水量600トン、乗員8名という小型艦で、イスラエル製のミサイルと徘徊UAVを搭載。想像図には、FGSは見当たりませんが、他のフリゲート艦が目標探知と照準を行い、本艦がミサイル発射するという海上弾庫として機能させるようです。軍艦としては異色ですが、中東のフシシ派の攻撃等、そして、将来の無人化を考えると、このような野心的な支援艦の整備も必要なのかもしれません。	川原梅三郎
2024 -160	2024/9/29	Chinese nuclear attack submarine sank during construction, US says	【中国建造中新型原潜沈没】 中国の攻撃型原子力潜水艦が建造中に沈没したと米国が発表	Naval News 2024/9/29	 中国で建造中の原潜が造船所の棧橋において沈没したとの記事がありました。最新型の周級原潜1番艦です。沈没場所が長江なので、引き揚げは比較的容易なのでしょうが、水没した機器等を復旧させるには相当な時間が必要になるでしょう。それにしても、造船所に係留中の潜水艦がなぜ突然に沈没したのか、原因は全く分かりません。	佐々木司
2024 -161	2024/9/30	Navy struggling to contain costs for Columbia-class sub program, says GAO	【米原潜建造費高騰】 海軍がColumbia級潜水艦プログラムのコスト抑制に苦慮、とGAOが発言	Breaking Defense 2024/9/30	 米海軍の最優先事業であるはずのColumbia級潜水艦プログラムはコスト超過が膨らみ続けているようです。毎年のようにGAOからコスト超過と建造遅延について指摘を受けていますが、一向に改善されていないようです。我が国では原潜こそ建造しませんが、潜水艦建造中のコスト超過や納期遅延はこれまで経験したことはありません。	佐々木司
2024 -162	2024/10/5	Navy identifies three vessels impacted by faulty shipyard weld work	【米艦整備不良情報】 海軍は造船所の溶接作業の欠陥により影響を受けた3隻の艦船を特定	DEFENSE NEWS 2024/10/5	 造船所で溶接の手抜き工事が発覚しましたが、NAVSEAの調査の結果、艦の安全性や運用に影響を与えないとの結論です。同じような事が日本でも起きていますが、根本的な原因は、人、工程、システムのどこにあるのか、しっかりと調査する事が不可欠であると考えます。	川原梅三郎
2024 -163	2024/10/8	Russian Baltic Fleet minesweeper disabled in Ukrainian sabotage in Kaliningrad.	【露掃海艇被害情報】 ロシア・バルチック艦隊の掃海艇がウクライナの破壊工作によりKaliningradで航行不能に	Army Recognition 2024/10/8	 バルト海に面するロシア領Kaliningradでウクライナの破壊工作により、ロシア掃海艇のエンジンが損傷し航行不能になったそうです。戦争に反対する乗組員の支援があったとか。Youtubeには損傷状況の映像もあります。ガスダクトに空いた「謎の穴」から海水がエンジンに入って故障したそうです。黒海から遠く離れた場所ですが、ロシア軍は虚を突かれた形でしょうか。	佐々木司
2024 -164	2024/10/3	China Coast Guard Now Operating in the Bering Sea	【中国艦の北方活動情報】 中国海警局船がベーリング海で行動	USNI News 2024/10/3	 中露の共同行動が北極域で多くなっているようです。記事には、今年7月に中露の爆撃機がアラスカの防空識別圏を連帯飛行し、オースチン長官は「何時でも迎撃する準備は出来ている」と述べられたことも書かれています。以前から温暖化の影響で北極海航路が注目されていますが、最近の紅海での商船等に対する攻撃により、さらに注目度が増すと思われます。	清水隆
2024 -165	2024/10/12	U.S. Navy Holds First TRAM At-Sea VLS Loading Test	【米海軍VLS洋上移送試験】 米海軍は、海上で初のTRAMを用いたVLS装填試験を実施	NAVAL NEWS 2024/10/12	 イージス艦のストライクダウン・モジュールに変わる装備の試験が成功裏に終わったとの記事です。写真からはどのような機構なのか分かりませんが、かなり大掛かりな装備のようです。	川原梅三郎
2024 -166	2024/9/9	HMS Cardiff joins HMS Glasgow in drydock fitting out at Scotstoun	【英艦Type 26の建造状況】 HMS カーディフがスコッツタウンの乾ドックで HMS グラスゴーとともに艦装中	NAVY LOOKOUT 2024/9/9	 英艦Type 26の建造状況を伝える記事です。すでに2番艦も艦装工事に入っており、建造ベースも早まってきています。建造工程の習熟も進み、8番艦では起工後60か月にまで短縮されるそうです。これだけの連続建造を実行すれば、当然生産性は向上するでしょうし、相当な経済波及効果が見込めると思われます。また、すでに豪州、カナダへの輸出移転も同時に進められており、累積的な相乗効果も期待できます。一方で、それぞれカスタマイズが異なるため、設計陣の奮闘は如何ばかりでしょうか。	本山泰之

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2024 -167	2024/10/12	Navy Just Reloaded A Vertical Launch System For The First Time While Underway At Sea	【米海軍VLS洋上移送試験】 海軍、航行中に初めて垂直発射システムを再装填	THE WARZONE 2024/10/12	 TRAMの運用要領が、写真により良く分かりますが、SS4で運用するのは厳しいと感じます。	川原梅三郎
2024 -168	2024/9/17	US Strategy for Anti-Ship Weapons to Counter China: Plentiful, Mobile, Deadly	【米軍対艦攻撃訓練】 中国に対抗するための対艦兵器に関する米国の戦略: 大量で、機動性があり、致命的!	Reuters 2024/9/17	 RIMPAC2024 で除籍艦(タワ級強襲揚陸艦(39,000 トン)をターゲットに撃沈訓練として、B-2 爆撃機からQUICKSINK 誘導爆弾(爆薬2000 ポンド)攻撃を行い成功しました。この記事はこれを受けて、QUICKSINK 誘導爆弾の南沙海等での戦略意義について論じています。対艦ミサイルより炸薬量が多く、致命的な既存の爆弾に誘導キットを装着するだけで誘導爆弾に早変わりし、かつ爆弾備蓄量が大量にあるため、この爆弾で大型艦を撃沈可能となると、水上艦にとってはかなりの脅威となりそうです。	清水隆
2024 -169	2024/9/24	Navy Force Structure and Shipbuilding Plans: Background and Issues for Congress	【米建造計画関連】 米海軍のフォース・ストラクチャーと建造計画:その背景と議会への問題提起	Congressional Research Service 2024/9/24	 米国議会調査局の報告書「米海軍のフォース・ストラクチャーと建造計画:その背景と議会への問題提起」の最新バージョン(2024.9.24版)抄訳です。後半で建造基盤維持のための各種施策について紹介しています。ご参考になれば幸いです。	岩崎洋一
2024 -170	2024/10/12	South Korea Looking At Officers-Only Crews For ROK Navy Vessels	【韓国海軍事情】 韓国は韓国海軍の艦船の乗員を士官のみとする事を検討している	NAVAL NEWS 2024/10/12	 思い切ったことをするものだと思います。ただ、「士官の仕事量は多少増えた」とありますが、士官の本音はどうなのでしょう。いずれにせよ、他山の石とすることなく、我が国も乗組手当の引き上げ以外の抜本的対策が必要だと思います。	川原梅三郎
2024 -171	2024/10/14	'It's Never Going to Be Easy'	【米建造状況】 「それは決して簡単な話ではない」	USNI News 2024/10/14	 湾岸地区のインガルスとオースタルは膨大な受注量と労働者不足の狭間にあるという現地からの報告です。オースタルではニューポート・ニューズとエレクトリック・ポートが建造している潜水艦の下請けをするための施設を受注し、またモービルにある別の造船所も潜水艦建造の下請けベンチャー企業になる予定です。ただし、数千人と言われる従業員が集まるのかどうか懸念材料です	岩崎洋一
2024 -172	2024/10/23	「慧龍」水下無人艇暗蔵武装！ 艦艏2具魚雷発射管一覽無遺	【台湾UUV情報】 「慧龍(Huilong)」水中無人艇が密かに武装! 船首の魚雷発射管2基が一目でわかります。	台北報導 2024/10/23	 台湾で実証試験を実施中の慧龍(Huilong)UUV(無人水中探査機)に関する記事(その1)。 科学技術検証目的で建造されたUUVに水中発射管が装備されていることが写真で判明したことから、軍事目的の検証が行われたのではとの内容。記事は国産SUT長魚雷の発射試験実施の可能性に言及しています。(その2)にもありますが、台湾の中国科学技術院(CAS)は、同艇で燃料電池技術の検証も実施する計画があり、台湾で建造する潜水艦やUUVの課題解決のプラットフォームとなっているようです。	山越博道
2024 -173	2024/10/23	傳「慧龍」水下無人載具成功射撃操雷將爭取後年度獲得預算	【台湾UUV情報】 「慧龍(Huilong)」水中無人探査機は魚雷の発射と運用に成功し、来年の予算獲得	台北報導 2024/10/23	 台湾で実証試験を実施中の慧龍(Huilong)UUV(無人水中探査機)に関する記事(その2)。 慧龍UUVが実施した試験内容や来年以降の予算要求について記載。日本なら、本内容はデュアルユースの重要技術を旧技術が予算を獲得して検証するプロジェクトを立ち上げているイメージですが、台湾は各省庁の組織横断的なプロジェクトが比較的容易になされているように見えます。	山越博道
2024 -174	2024/10/16	「台版AIP潜水艦」有譜 中科院「氢能燃料電池」可望用於後續潛艦	【台湾潜水艦情報】 「台湾版AIP潜水艦」の計画あり 中科院の水素燃料電池が後続潜水艦に採用の見通し	台北報導 2024/10/16	 台湾で実証試験を実施中の慧龍(Huilong)UUV(無人水中探査機)に関する記事(その2)。 慧龍UUVが実施した試験内容や来年以降の予算要求について記載。日本なら、デュアルユースの重要技術を旧技術が予算を獲得して検証するプロジェクトを立ち上げるイメージですが、台湾では各省庁の組織横断的なプロジェクトが比較的容易になされているように見えます。	山越博道
2024 -175	Spring 2024	Combined Physical and Virtual Testing - The New Survivability Testing Reality	【米海軍残存性評価】 物理テストと仮想テストの組み合わせ - 新しい残存性試験の現実	NAVAL ENGINEERS JOURNAL Spring 2024	 米海軍技術者協会の技術誌(NEJ)からの記事です。残存性試験に関する、実爆試験と、シミュレーション試験の組み合わせによる、残存性検討の有意性について述べられたものです。数式等出てくるものではありませんが、概念の理解には宜しいかと思います。	山越博道

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2024 -176	2024/9/23	The development of a lean crewing solution for the Royal Navy' s Type 31 frigate	【英艦の省人化検討】 英海軍のType 31フリゲート艦の無駄のない乗員配置ソリューションの開発	NAVY LOOKOUT 2023/9/23	 <p>建造が進む英艦Type 31フリゲート艦の省人化に関する記事です。今日、ほとんどの先進国海軍が募集難と人材不足に直面していますが、英海軍も同様であり、その省人化が、相当な努力を払い、取組まれた模様です。その検討は、網羅的な運用シナリオを作成したうえで、乗員一人一人の負荷を現実的なレベルに収めるという手法が採られたようです。本艦は世界規模の長期展開を念頭に運用が構想され、また輸出にも意欲的なことから、省人化は必須の課題なのでしょう。</p>	本山泰之